別　紙

第８回「市立病院のあり方検討会議」の開催結果について
（速報版）

１　開催概要

(1) 開催日時　　平成２８年１１月１日（火）１５：００～１６：３０

(2) 開催場所　　総合保健福祉センター（アシスト２１）２階・講堂

(3) 内　　容　　・平成２７年度病院事業決算の状況等について
・本市の政策医療の提供体制について
・改革プラン（たたき台）について

２　意見交換趣旨

(1) 平成２７年度決算の状況等について

○佐多構成員（産業医科大学病院・病院長）

・医療センターは、産業医科大学病院と同じような病院機能だと思うが、平均在院日数の１４日台は長いと思う。もっと短くすれば診療単価は上がると思う。

・どの急性期病院も、平均在院日数の短縮による病床利用率の低下に悩んでいる。福岡県内の大学病院でも来年４月に病床を１００床減らすという話もある。医療センターの５８５床で７６％ということは、１４０～１５０床余っていることになる。経営効率化のために、病棟の必要性の検討も行うべきではないか。

○花岡構成員（福岡県看護協会・会長）

・医療センターと八幡病院の病床利用率はずっと右肩下がりになっており、平成２７年の７６％という数字は、急性期の病院としては少し低いと思う。病床利用率を維持するためには、新入院患者を増やす必要があると思う。

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

・平成２７年度の決算を見ると、非常にショッキングな数値だが、こういう数値が出るからこそ、独法化することが重要だと思う。一部診療科のドクターの欠員も１つの要因だったと聞くと、独法化を急がなくてはならないと思う。

○古川病院局長

・医師の確保については、独法化すれば集まるというものではない。ただ、独法化によって経営の柔軟性が高まるので、それを人材確保や経営改善にどう活かすかが重要だと思う。

・病床利用率については、例えば医療センターでは、周産期医療や感染症など政策医

療で一定の病床数を確保する必要があるという事情もあるが、新入院患者に選んでもらえるよう努力していきたい。

(2) 政策医療の提供体制、改革プラン修正案について

○権頭構成員（もやい聖友会・理事長）

・医師の初期臨床研修の受入れ機関として、優秀な人材が確保できるような魅力的な病院になってほしい。

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

・優秀な人材の確保については、北九州市立大学においても、独法化による柔軟なマネジメントによって改善された。第３回会議の臨時構成員の話にあったように、医師や看護師などでチームを作り、やる気の出るような取組みを積極的に進めるなど、独法化によって随分できることがあると思う。

○下河邉構成員（北九州市医師会・会長）

・人材育成は、１つの病院が単独で努力してもできるものではない。大学病院の医師でも地域医療のため民間病院を回っている。地域がネットワークをつくりながら、地域で人を育てるという視点が大切。

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

・病院のあり方については、市立病院だけでという考え方ではなく、地域全体でどう底上げしていくかが大事であり、いかにコーディネートしていくのかが課題だと思う。

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

・北九州市立大学では、「知の拠点」という考えの下、北九大がリーダーとなり、関門地域を含んだ１３大学でネットワークを組み、様々な取組みを行っている。これまでのように競合するのではなく、補い合わなければ立ち行かない時代だと思う。

・今回作成した医療マップを見ると、民間病院も含めてたくさんの病院がある。いかにコーディネートするかが非常に重要になってくると思う。まさに「医の拠点」という役割を担わなければ、これほどたくさんある病院の連携は難しいと思う。

・この医療マップは地域全体の医療のあり方を示した資料になったと思う。１５０床以下の病院や周辺地域の病院も加えて、これを基に作り上げてほしい。

○花岡構成員（福岡県看護協会・会長）

・改革プラン修正案は、随分分かりやすくなったと思う。

・独法化を含めたその他の部分はどうなるのか。

○事務局

・改革プランには今後の収支見通しや経営形態の見直しについても記載することになっており、現在内容を検討している。今後、段階的にお示ししていきたい。

○平田構成員（戸畑区親子ふれあいルーム・代表）

・改革プラン修正案は、私のような一般市民にも分かりやすい内容になっていると思う。人材の確保の面で意見を言うと、良い人材の確保のためには、働く方の人権やワーク・ライフ・バランスが保障されたものになるべきだと感じた。

・多様化している生活様式に対応できるよう、医療や福祉のサービスなどがバランス良く融合された市立病院になるような改革プランになればと思う。

○原田構成員（乳がん患者会あすかの会・代表）

・医療センターの医師や看護師は素晴しい方が多く、他の病院から転院した患者さんもうらやましがっている。今以上に素晴らしい医師や看護師が集まる病院になってほしい。

○小野構成員（北九州市薬剤師会・会長）

・プランの中に、医療センターの老朽化対策等とあるが、こういう時を利用して、看護学校や門司病院について検討してはどうか。例えば、北九州市立大学に看護学科をつくって専門学校から大学にし、今の看護学校のスペースに門司病院の結核病棟を移設するということも考えられるのではないか。

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

・学科の創設については、大学からのアプローチというより、議会や行政を含めた市民ニーズの高まりを受けての対応になるだろう。

・現在、北九大では６年間の中期目標・中期計画のもとで運営を行っており、仮に、その中でそうした内容が盛り込まれれば積極的に検討していくことになると思う。

○小松構成員（手をつなぐ育成会・理事長）

・看護学校はつぶさないでほしい。むしろ、福祉や障害などに対応できるスペシャリストを育成できるような仕組みも考えてほしい。大学にすればいいというものではなく、どういう人材が必要なのかということをしっかり考えなければならない。

３　第８回会議のまとめ

○近藤座長（北九州市立大学・学長）

改革プランについては、前回のたたき台に対する厳しい意見を受け、市立病院の役割の部分は、かなり練られたものになってきたと思う。

改革プラン全体としては、収支見通しや経営形態の見直しなども含めて作り上げる必要がある。次回は、平成２７年度の決算も踏まえた今後の収支見通しについて資料を準備していただきたい。

４　第９回会議について（予定）

(1) 開催日時　　平成２９年２月頃（予定）

(2) 開催場所　　未定

(3) 議　　題　　改革プランについて